

交渉結果報告書

市長公室人事課

交渉内容 2018春闘要求書の回答等について
交渉日時 平成30年4月24日(火) 15時10分～17時25分
交渉場所 うじ安心館 3階大会議室
交渉出席者 当局側 宇野副市長 脇坂市長公室長 福井市長公室副部長 波戸瀬人事課長
西川人事課副課長 岡野同課人事研修係長 渡邊同課給与係長
組合側 小野執行委員長 副執行委員長 書記長 書記次長他執行委員等 計13人

概要	要
組合の主張	<p>2018春闘要求書に対する回答等を行った。</p> <ol style="list-style-type: none">① 賃金改定にあたっては、職員が働きがいや意欲を持って勤務できる賃金体系・水準とするべきである。② 先日の市長の記者会見において、職員の給与が日本一高いと市長が述べたかのような報道がされているが、給与が日本一高いというのは事実と異なる。ラスパイレス指数と給与に関してどのように発言をされたのか。報道が誤っているのであれば、当局として責任を持って訂正させるべきである。③ 昨年度の時間外勤務は、全体で大幅に減少しており、一定の成果ではあるが、一方でサービス残業が生じていないのかが問題である。サービス残業が生じないよう対策を講じることが必要である。
当局の主張	<ol style="list-style-type: none">① 給与改定については、本年の人事院勧告や京都府の人事委員会勧告等の動向を見定め、ラスパイレス指数に与える影響なども十分に考慮する必要があると考えている。② 市長は、ラスパイレス指数は本給のみ国と比較するものとの正しい認識のもと発言されていた。しかし、結果的にあのような報道となってしまったものである。③ サービス残業はあってはならないものと認識している。時間外勤務をどのように管理するのか、所属長研修等の機会を活用し、改めて管理職員に意識づけを図っていきたい。